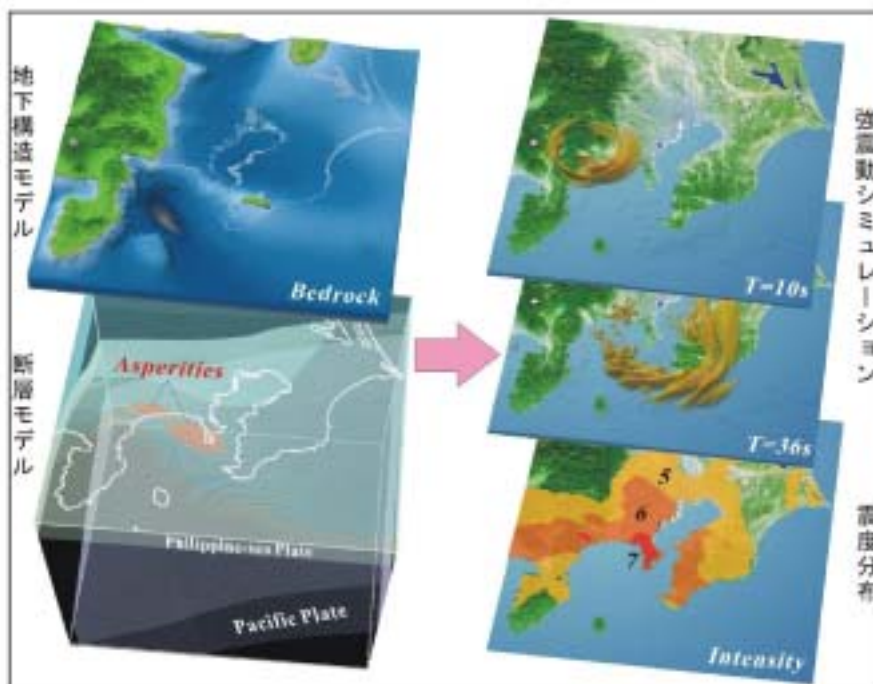
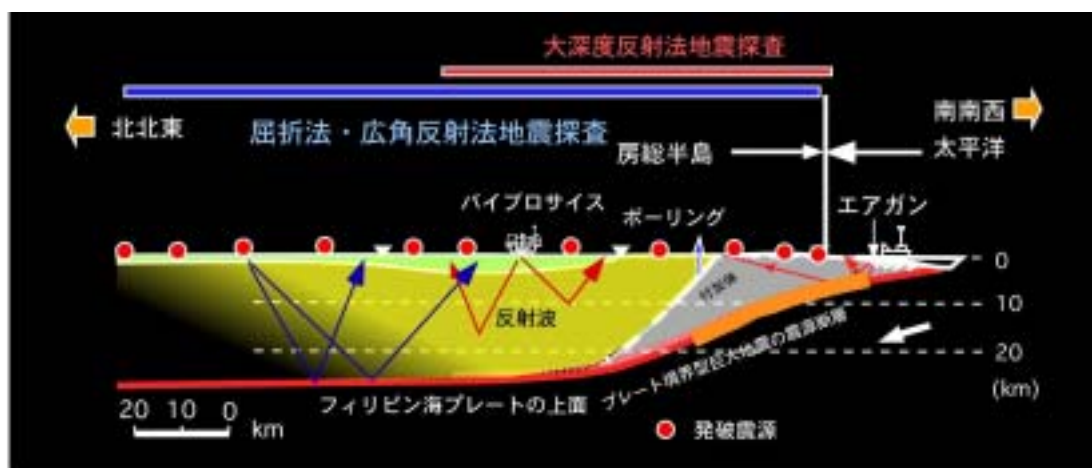


大都市圏地殻構造調査測線図（1.1参照）



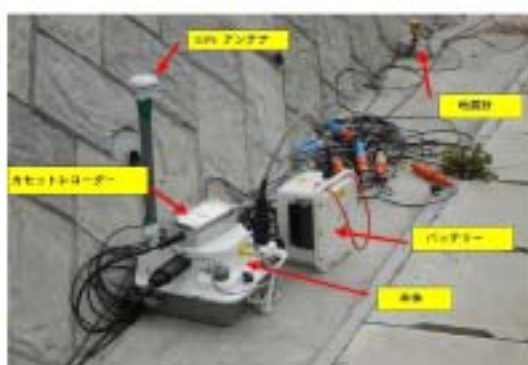
大都市圏地殻構造調査研究計画の概念図（3.1参照）



房総半島縦断地殻構造探査概念図 (1.2参照)



陸上の震源として使用したパイプロサイス (1.2参照)



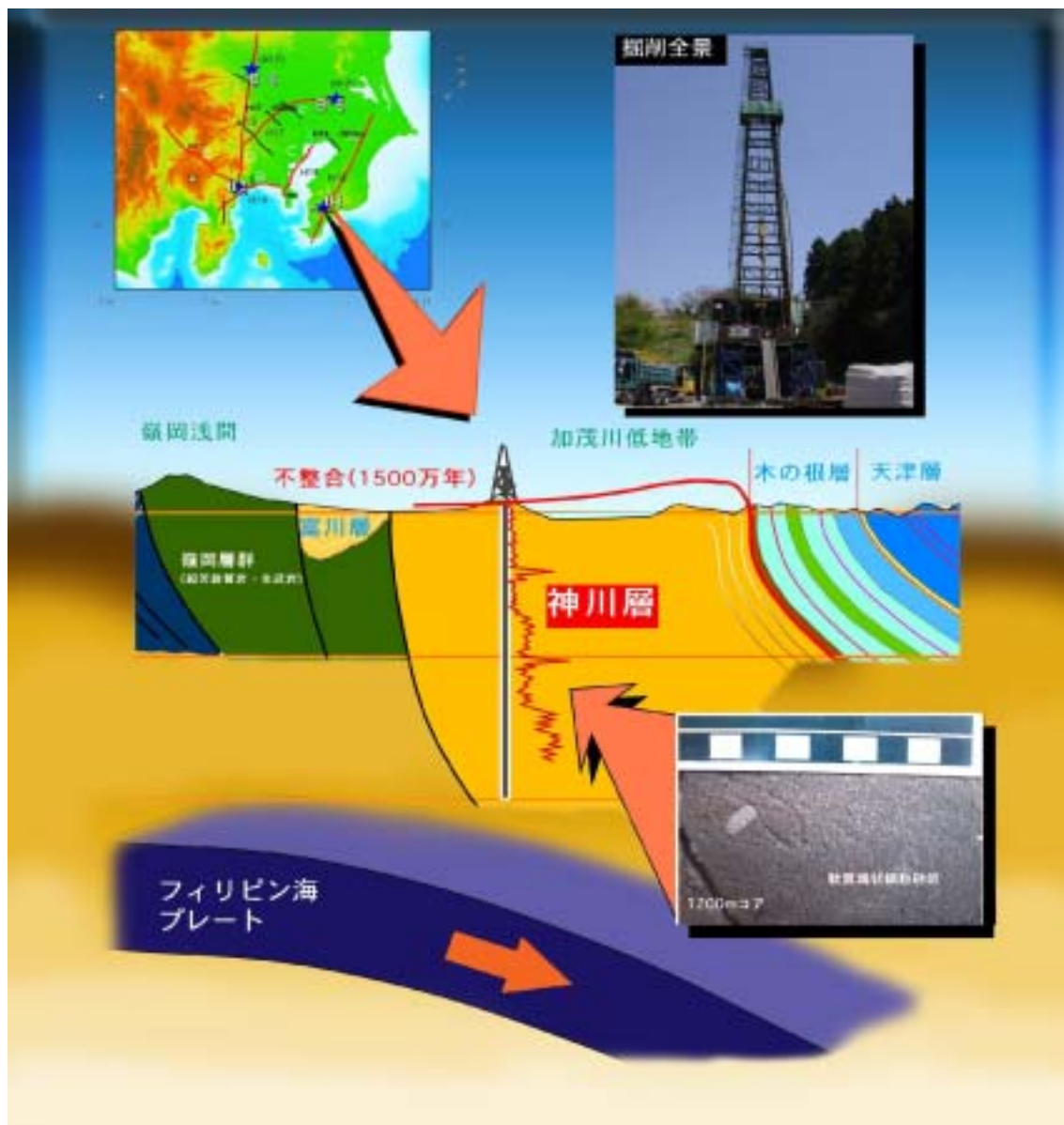
観測に使用した新型の独立型レコーダー (1.2参照)



降下中のエアガン (小田原沖, 1.3.1参照)



エアガンの発震作業 (船尾の気泡はエアガンの発震による 1.3.1 参照)



鴨川における大規模ボーリング掘削の概念図（2.2および2.4参照）

左上：ボーリング掘削位置図。房総半島南部，鴨川市大山にて掘削された。

右上：ボーリング掘削の全景。

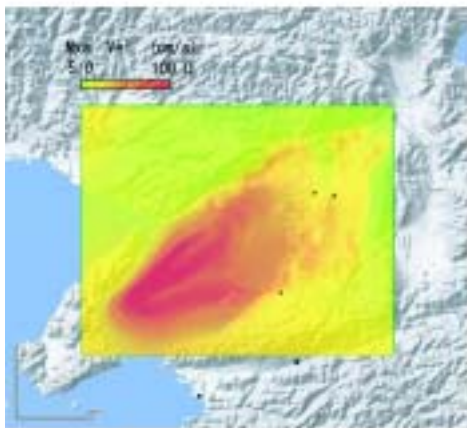
中央：今回のボーリング掘削，及び周辺地域で実施された地質調査により推定された地質断面モデル。ボーリング坑では岩石の採取および物理検層が行われ，最終的にはHi-net地震計が設置されて高感度地震観測を担う。

今回のボーリング掘削地点では，深度2000mまで中新統の神川（かにかわ）層が分布していた。

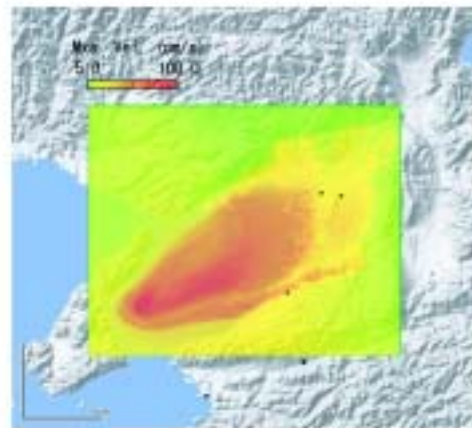
右下：深度1200m地点から回収された岩石の拡大写真。



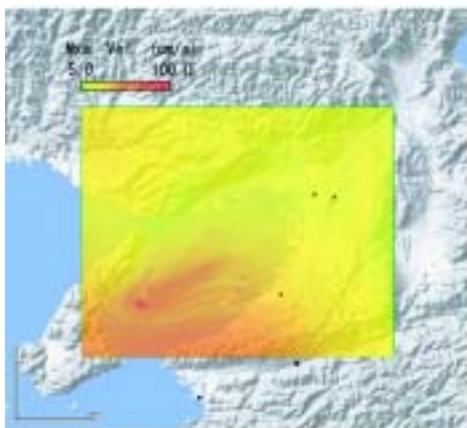
地震調査委員会で設定されている想定南海地震の震源モデル (3.8参照)



南北成分



東西成分



上下成分

三次元有限差分法により予測された
大阪盆地における最大速度分布
(周期2.5~10秒) (3.8.3参照)。